

第7回 建設工事における安全衛生経費の確保に関する実務者検討会 議事要旨

日時：令和4年6月27日（月）13：00～15：00

場所：国土交通省会議室（Web 併用）

【事務局横田室長】

資料1から2について説明。

【東尾委員】

- ・建設業の死亡者数は長期的には減少してきたが、令和3年は前年に比べて増加した。私たちは危機感を持って注視している。なかなか現場の事故をなくすという目標が達成できていない。安全衛生経費の支払いを含め、安全のための様々な実効性のある対策が求められる。
- ・これまで、組合としては、ヨーロッパ諸国で取り入れられているように、安全衛生経費を別枠として取り扱うべきとの意見を述べてきており、関連の議員連盟からもそういった意見があったと承知している。しかし、日本の工事の請負体制のシステムの全体的な見直しになりかねず、労働災害を早急に減らすためには、当面は安全衛生対策項目の確認表及び安全衛生経費の内訳明示のための標準見積書の作成を優先させていただきたい。これらが普及すれば建設職人の処遇改善にもつながる。
- ・墜落・転落は、屋根なども多いが、足場も多い。直接工事費にある足場工事費や、足場の点検などのソフトの経費についても、できるだけ広く安全衛生経費に包含していただいて、議論を詰めていってほしい。
- ・戦略的広報についても一般の下請け、そして国民全体へ理解してもらうことが非常に重要。強力に進めていただきたい。

【藤井委員】

- ・安全衛生経費の「見える化」ということについては異議なしである。元請け一次下請け間だけでなく、上から下まで、どちらが負担するかを明確にするべき。
- ・官庁工事ではある程度予算があるが、民間工事においてもこういった取組が浸透するようお願いしたい。

【細谷委員】

- ・安全衛生経費の「見える化」は重要なポイント。誰に対する「見える化」であるかが重要である。国民全体に広げていく必要がある。また発注者への意識付けを是非戦略的にお願いしたい。
- ・「見える化」について、元請けから一次から一人親方まで、安全対策項目や負担区分を確認するのは重要。

- ・きちんと安全衛生経費を見込んで積算した人が不利にならない仕組みを検討してほしい。

【水野委員】

- ・「見える化」については、自分自身もゼネコンの元請けとしてやっていた経験もあり、こういった取組を是非進めてほしい。
- ・アクションを起こした後のチェックが、大変労力がかかる部分ではあるが、重要。地方整備局へ提言に行った際にもお願いしているが、立ち入り検査などでしっかりと確認してもらいたい。

【最川委員】

- ・10年ほど前まで現場にもいたが、元下間の契約が明確でないところが問題。
- ・発注者側に対しても安全衛生経費が必要であるという認識を持ってもらう必要がある。安全のキャンペーンなど広報を是非お願いしたい。

【本山委員】

- ・建設業の死亡事故は、昭和36年のピーク2652人から令和3年288人と約10分の1になった。しかし、ここ最近は建設投資の額はそれほど変わっていないが、事故の数も固定化してしまっているのではないかと。この点が問題。
- ・この検討会で、これまで曖昧だった安全衛生対策項目について、しっかり確認することが明確になったことが大きい。この安全衛生経費に対する取組を機に労働災害の一層の減少につながることを願う。

【小岸委員】

- ・今後の検討に当たっては、実務者と言うことだったが、現場レベルの人を呼んで話を聞いてほしい。以前一人親方の座談会をやってもらったことがあったが非常に有益な議論となった。
- ・広報には是非力を入れてほしいが、お役所的なものではなく、YouTubeやSNS等も活用し、広く伝わるようにしてほしい。
- ・安全管理をしっかりやった人が不利にならないようお願いしたい。
- ・大手ゼネコンの現場や国などの公共工事を参考に議論が進んでいるように感じる。私に関わることの多い民間発注のマンションリニューアル工事などでは、安全衛生経費という言葉自体知らない労働者が多い。もっと日本全体の建設現場を考えて施策を作してほしい。

【田久委員】

- ・2年前から議論が始まったが、是非早く「見える化」できるよう進めてほしい。
- ・墜落転落が議論の中心で、あまり議論されていなかったが健康や衛生面も重要。アスベスト被害は認定の6割が建設業であり、義務化された解体前の事前調査も経費の中に入れていただく必要があると考えている。今度WGで検討してほしい。

【山谷委員代理（川村専務理事兼事務局長）】

- ・提言案に異論なし。

【大嶋委員代理（吉川上席研究員）】

- ・今回提言された、安全衛生経費の「見える化」等によって、建設現場の安全衛生のより一層の向上が図られると考える。
- ・提言案の通り、安全衛生経費の別枠化は難しいと思われるが、標準見積書に反映されることが可能となれば、しっかりとした安全衛生経費が確保できると考える。今後の普及等においては全面的に協力したい。

【城戸委員】※

- ・提言については適切にまとめてある。
- ・ただ、近年の新型コロナウイルスによる業績悪化、工期遅延などにより、建設現場での人員不足や過重労働など、作業者のメンタルヘルスを含めた安全衛生・健康管理面への影響が懸念される。提言内容を今後広く周知することで安全衛生管理の充実を図っていただきたい。

【関根委員】※

- ・安全衛生経費の取組については、現場レベルにまで降りていくのはいつなのか。議論をしないと進まないが、時間がかかるのではないかと。
- ・国交省からもよく発信していただきたい。社会保険やCCUSもようやく認知されてきているので、安全衛生経費の関係も認知されれば、現場レベルでも交渉しやすくなる。本格的に取り組んでほしい。

【蟹澤座長】

- ・各委員からは提言案の内容に賛同する趣旨で意見をいただいたと思う。合わせて座長としての意見を述べる。
- ・技能者の担い手確保にも安全が重要、そのためにも経費の確保が必要である。
- ・この検討会の関係者はいわゆる野丁場の方が多いが、いわゆる町場、木造建築住宅の現場に普及していないという実態がある。経費云々と言うより、そもそも労働安全衛生法を守っているか、しっかり対策をしているか、その部分に死亡者数を抜本的に減らすための余地があるのではないかと。
- ・「見える化」はエンドユーザーや国民にも問題であると認識してもらい、また民間発注者にも認識していただく必要がある。
- ・安全は墜落転落対策だけではないという話もあったが、これからの季節、熱中症対策も必要。大手の現場ではミストや送風機を設置したり、WBGT値を確認したりとやっているが、町場でも必要。
- ・具体的な経費を立ち入り検査で指摘するのは難しいかもしれないが、担い手確保のためにはダンピングはやめさせる必要。

【事務局横田室長】

- ・戦略的広報や「見える化」の重要性について、貴重なご意見をいただいた。
- ・安全衛生対策項目の確認表と標準見積書の作成においても別途検討会等立ち上げる予定でいるので、引き続きご指導お願いしたい。

【蟹澤座長】

- ・資料1のとおり提言をとりまとめ、資料2のとおり今後の進め方についても委員の皆様から了承いただいたということによろしいか。

(異議なしの声あり)

- ・事務局は各委員からの意見を踏まえて、適切に安全衛生経費の取組を進めていただきたい。

※：欠席のため別途徴収した意見